

clean-tips



記者発表会

本社屋増床記念パーティー開催で
事業拡大を熱烈アピール！

contents

- * features P
1-2 事業拡大に伴う新製品記者発表会開催
去る11月6日、東京で行った記者発表会と懇親会の模様をレポート。
- P
3-4 本社屋増床記念パーティー開催
本社工場を会場に全国からお客様をお招きしました。
- P
5-6 注目されています！ケルヒヤーブランド
たくさんの新聞・雑誌に取り上げられています。
-
- * regulars P
7 Sato's Talk ————— 社長からのお礼の挨拶
新製品続々発表！———— 家庭用製品がますます充実
ケルヒヤーの歩み(第1回)———— フロンティアスピリットにあふれる社史を連載



事業拡大に伴う新製品

記者発表会を開催いたしました。

2002年11月6日(水)ルポール麹町■マーブルの間 ■サファイアの間

本社から会長を招き華々しく記者発表会を実施

弊社は今まで業務用製品の分野で15年の実績を積み、近年は家庭用製品にも進出、その業績を拡大してまいりました。そしてこの度より多くの皆様にケルヒャーブランドを知りていただくために、新製品とあわせて初の記者発表会と記者向けの弊社製品の体験懇親会を開催いたしました。

当日は、約70名以上の記者の方々がご来場のなか、弊社より代表取締役社長 佐藤八郎と家庭用製品部長 佐川信一、ドイツケルヒャー本社より会長 ヨハネス・ケルヒャーとマーケティング担当役員 ゲオルグ・メッツが壇上に上がり、「事業拡大に伴う新製品」を発表いたしました。ご来場いただいたのは、日本経済新聞、日刊工業新聞、毎日新聞、産経新聞、電化新聞、朝日英字新聞、日本流通産業新聞などの全国紙や共同通信社、雑誌社では日経BP社、文藝春秋社、講談社、学研、ダイヤモンド社、主婦の友社、主婦と生活社など様々なジャンルの方々でした。

はじめに、会長ケルヒャーより「日本本格参入に伴う思いとケルヒャー社の軌跡」次に、役員 メッツより「ケルヒャー社の躍躍とその功績、そして世界各地での成長と日本市場での戦略」の発表がありました。弊社社長佐藤からは、「年末の首都圏における家庭用製品の販売促進計画」を発表いたしました。



数多くの媒体から取材を受けました。



体験懇親会では個別に数多くの媒体の方々から取材を受けました。その結果、今後も以下のような新聞や雑誌での記事掲載が予定されています。

日刊工業新聞、電化新聞、週刊文春、おはよう奥さん、日経ビジネスなど。

なお、テレビ東京の経済ニュース番組として定期的あるワールドビジネスサテライトの報道取材スタッフの方々からの取材も受け、その模様は当日の夜11時からニュースとして、テレビ東京全国6局ネットにて放送されました。



●テレビ局スタジオ 風景

PRESS*CONFERENCE NOVEMBER 8 WED.2002 in LE PORT KOJIMACHI

製品デモンストレーションに感嘆の声

会場を替えて開催された「体験懇親会」は、1時間にも及ぶ記者発表会の後にもかかわらず、ほとんどの記者の方々がそのまま来場され、会場に設置したケルヒャー家庭用製品の展示と弊社各担当によるデモンストレーションを興味深く体験されました。

会場には、家庭用製品の「高圧洗浄機」と「スチームクリーナー」のラインアップをはじめ様々な洗掃機器や豊富なアクセサリー類を展示し、ケル



日本初のロボットクリーナーに熱い視線

今回の体験懇親会で最も注目を浴びたのは、ドイツのケルヒャー社でこの冬発売することになった家庭用ロボットクリーナーのお披露目とデモンストレーションでした。この家庭用ロボットクリーナーは、ケルヒャー社の技術力の高さを理解していただくと共に、媒体の方々からのご意見を聞かせていただるために今回、ドイツ本社より披露されました。本製品の日本発売は現在未定です。このロボットクリーナーは、センサーにより自動的に部屋の中のゴミを清掃し、そしてゴミがなくなるまで掃除し続けますが、バッテリーが切れる前に自動的にベースに戻り充電します。また、ゴミがたまつても自動的にベースに捨てに行き、段差などを感知して、落ちないように自動的に方向を変えます。



ヨハネス・ケルヒャー(右)
ケルヒャー社会長/ケルヒャー社の創設者である
アルフレード・ケルヒャーの長男、ケルヒャー社の
オーナー。

ゲオルグ・メッツ(左)
ケルヒャー社マーケティング担当役員/ケルヒャーの全世界市場を統括するマーケティングの
責任者であり、ケルヒャージャパン株式会社
の会長も兼務。



とくに女性誌の女性編集者の方々からは、競合製品で実際にスチームクリーナーを体験されている方も多い、スチーム力の違いによる汚れの落ち具合の差にビックリされたり、安全性を重視した機能や使いやすさを考慮したスイッチ類などに高い評価をいただきました。

また、多くの記者の方々から、弊社社長佐藤や会長のケルヒャー、役員のメッツに対して発表会では聞きなかった市場性や製品特性に関する質問を個別インタビューという形で取材していました。

このことはケルヒャーの家庭用製品への注目度の高さや市場性の高さを示すものであると実感いたしました。

大きな成果 各マスコミに取り上げられました。

■ワールドビジネスサテライト(テレビ東京) ■共同通信社による全国へのニュース配信 ■日本物流新聞



発表会当日の11月6日夜11時からの番組報道枠にて、注目される「次世代家電」として取り上げられ、日本に本社上陸したヨーロッパメーカーとして記者発表会の模様と会長ケルヒャーの単独インタビューが放送されました。

当社共同通信社様からの取材もあり、翌日全国の報道を中心に記載されたニュースとして、ケルヒャー社の本格参入とロボットクリーナーの記事が掲載されました。

流通の業界紙として定評のある本紙で社長のコメントと共に新製品のスチームクリーナーとロボットクリーナーの比較検討の記事が紹介されました。

おはよう奥さん(学习研究社)





本社屋増床記念 レセプションパーティーを開催

2002年11月8日(金)

パーティーに先立ち竣工式を挙行



増床記念パーティに先立ち本社屋並びに工場増床の竣工式が行われました。式には弊社社長佐藤をはじめ、会長のケルヒャー、役員のメッツ、設計・施工を担当した菅原建築設計事務所代表取締役である菅原榮様、㈱竹中工務店東北支店長の吉田昌和様などが列席し、厳かな雰囲気のなかとり行されました。

パーティには全国各地よりご来場



北は北海道から南は九州まで、全国から90名を越える皆さまの出席をいただきました。受付後、招待の皆様にはパーティ開催に先立ち新設された社屋と工場をご見学していただきました。本パーティは新設された工場の部分を会場として使用しました。

温かいご祝辞、お言葉の数々、ありがとうございました。



■藤原産業株式会社、代表取締役社長の藤原熱様によるご祝辞



■マーテック株式会社、代表取締役会長の木下信様によるご祝辞と乾杯のご発声



■宮城県副知事、松木伸一郎様のご祝辞と感謝状授与

●皆様から温かいお言葉や励ましを頂きました。社員一同厚くお礼を申し上げます。

THE INAUGURATION * PARTY NOVEMBER 8 FRI. 2002



多彩なプログラムで盛り上がる会場

会場内にはパーティを充分に楽しんでいただくよう、家庭用製品と業務用製品のラインナップをはじめ、特設ステージや音楽のステージ、デモコーナー、料理コーナーなどをレイアウトしました。パーティは前半のセレモニーと後半のアトラクション中心のプログラムに分かれ、和やかな雰囲気の中、進行しました。



ケルヒャーの家庭用製品が勢揃い

ご招待者の皆様には家庭用製品のラインナップを一堂にご覧いただき、豊富な製品の数々と共に性能の高さや特長などを再認識していただきました。



ケルヒャーの業務用製品も勢揃い

高圧洗浄機、床洗浄機、スイーパーなどの業務用製品も一堂に比較していました。そのラインの豊富さや処理能力の高さを充分にご理解いただきました。



東京支店家庭用製品中村リーダーによるスチームクリーナーのデモ風景。

流行行の路井名古屋支店長のコメントも聞け！興味！競合比較ゲーム大会の様子。

本場のドイツ料理もパーティを華やかに演出してくれました。



外ではICC1のデモも開催

ICC1は公道や駐車場など広い場所を清掃できる革新的なスイーパーです。今回のデモでは集めたごみを圧縮し、効率よく清掃できる高い性能を実際にご覧いただき、お客様にICC1の高い処理能力を実感していただきました。



ロボットクリーナーは注目の的

招待者の皆様に初披露したロボットクリーナーは高い関心を集めました。目の前でごみを拾い集める動作に対して質問も次々と飛び交い、この製品の大きな可能性を実感いたしました。



リペアセンターも拡充

増床された工場の一画には家庭用製品リペアセンターも拡充され、弊社製品の修理、補修体制がますます充実する運びとなりました。機能性を第一に考慮しレイアウトされた設備と専任スタッフが家庭用製品のリペアを万全にお引き受けいたします。



本社・工場には新しい施設が充実

工場内にはPDIセンターが拡充されました。また本社屋内には研修室、トレーニングルーム、ショールームが新設されました。これらの施設の新設、拡充により、いっそうケルヒャー製品のボテンシャルをアップさせてまいります。

大きな成果 各マスコミに取り上げられました。

■スーパーNEWS(仙台放送ローカル枠) ■ニュースの森(東北放送テレビ)



社屋と工場を増床し落成した様子が当日の夕方のニュースで放送されました。



「夢のおそうじロボット」としてロボットクリーナーが紹介されました。

■OHTバンデス(ミヤギテレビ)



MHI NEWS CENTER
家庭用の掃除ロボットが完成

番組内の夕方のニュース枠でロボットクリーナーが「家庭用掃除のロボット」として紹介されました。

■河北新報(11月9日付 朝刊)



増築した社屋と記念パーティの様子が写真入りの記事として掲載されました。



こんなにたくさんの

新聞・雑誌に掲載されています!



ドイツの名門ブランドが評価され
ケルヒヤーのスチームクリーナープレゼントに
応募数なんと19193通!

さる10月上旬に朝日新聞各地方版(札幌、東京、名古屋、大阪、北九州など)の読者プレゼント、「マリオン」の欄に紹介された弊社スチームクリーナー「1102」のプレゼントには2万通近い応募が寄せられました。この数はマリオン歴代3位に入るほど多さでした。

ドイツを代表するブランドであるケルヒヤー製品への高い関心や評価が応募数の多さに反映されたようです。



■このような広告も展開中です。



●「おはよう奥さん」03年1月号掲載



●「文芸春秋」02年7月号掲載



●「日経トレンディ」02年6月号掲載

Sato's Talk

ケルヒャー ジャパン株式会社
代表取締役社長 佐藤 八郎

「新しい目標に向かい
さらに努力を続けていきます。」



Hachiro Sato

本社を東京から仙台北部工業団地に平成6年に移転、以来8年の間に多くのお客様のご支援をいただき順調に業績を伸ばすことができました。厚く御礼申し上げます。

製品の取扱い数量の増加、社員数の増加などから工場や事務所が手狭になり、また品質管理の徹底、アフターサービスや修理体制の充実、研修施設の充実が今後も成長する鍵と考え、この度平成14年11月に本社屋と工場の増床を行いました。

増床記念パーティには全国から多くのお客様にご臨席をいただき感謝の気持ちで一杯です。また増床パーティに先立ち東京麹町で会長のケルヒャー、役員のメッツの同席で新製品発表会を行いました。この発表会には想像以上のたくさんのメディアの方に出席をいただきケルヒャーというブランド、またケルヒャー製品に対する皆様の関心の高さに身が引き締まる思いでした。

厳しい経済環境は続くと思いますが、「勝ち組」として生き残るためにキーワードとして私共は「高い付加価値を持った独自性」を掲げています。ケルヒャーとは何者か?という問いに明確に答えることができるよう品質管理の徹底、アフターサービスの充実、お客様とのコミュニケーションの緊密化を図っていきたいと考えています。

今回の記者発表会、増床パーティーを大きな節目としてこれからもさらにケルヒャーというブランドが多くの方々からご支持を頂けるよう、社員一同新たな気持ちで今まで以上に前進する決意でございます。これからも皆様の尚一層のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

新製品続々発表!

家庭用製品に新機種とアイロンアクセサリーがラインナップ。

K 5500

従来の紙パックに代わり水をフィルターに使用する経済的で安定した吸引力を誇るバキュームクリーナーです。HEPAフィルターも併用し、ごみ除去率は驚異の99.99%（0.3ミクロン以上）。細菌の発生を抑制し、タバコの煙、花粉、ダニなどを捕集しますのでアレルギーの方、小さなお子さまのいるご家庭におすすめです。

アイロン アクセサリー

「K 1201 Fang」、「K 1501」に接続しスチームアイロンとして使用するアクセサリーです。強力で細かなスチーム噴射により手早く服などのシワをのばすことができます。

K 1100

本格的なスチームの能力はそのままに、アクセサリー類を最小限にとどめることで、お手軽な価格を実現しました。初めてスチームクリーナーをお使いになるご家庭に最適です。



SINCE1935 ケルヒヤー社の歩み

第1回



1901年3月、ケルヒヤー社の創立者であるアルフレッド・ケルヒヤーはドイツ、バート・カンシュタットに住む実業家の父、エミルと母ヨハンナの間に生まれました。好奇心旺盛で発明好きなアルフレッドは23歳で公認技術者としての資格をシュトゥットガルト技術大学で取得。すぐに父親の会社の代理店への勤務を開始しました。その後の数年間で彼は代理店を技術コンサルティング会社として

成長させました。当時手がけた主なプロジェクトには、業務用の厨房やクリーニング店、貯水設備などがありました。1934年ドイツの航空会社ルフトハンザ社が寒い季節に航空機のエンジンを暖める暖気用ヒーターの開発を依頼。アルフレッドはわずか2年の間に全く新しいガソリン燃焼式温風送風機を開発し、量産体制を確立させました。

(以下、次号へ)

ケルヒヤー社の創立者アルフレッド・ケルヒヤーと妻のイレーネ

clean-tips クリーンチップス 2002.WINTER / Vol.03

発行：2002年12月 ケルヒヤー ジャパン株式会社
〒981-3408 宮城県黒川郡大和町松坂平3-2
Phone 022-344-3140 Fax 022-344-3141

KÄRCHER

Mail info@karcher.co.jp

Homepage <http://www.karcher.co.jp>